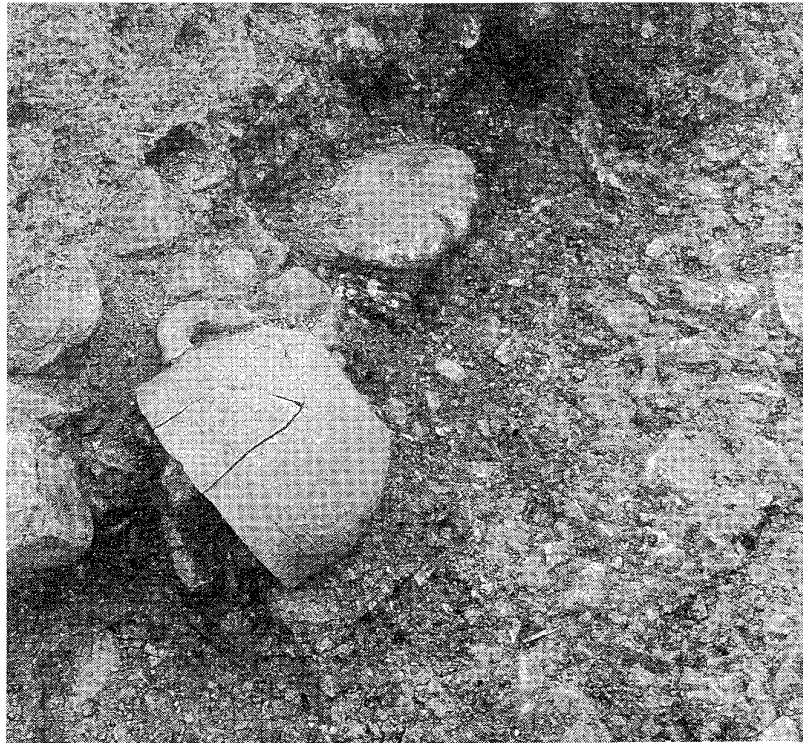


植物園北遺跡

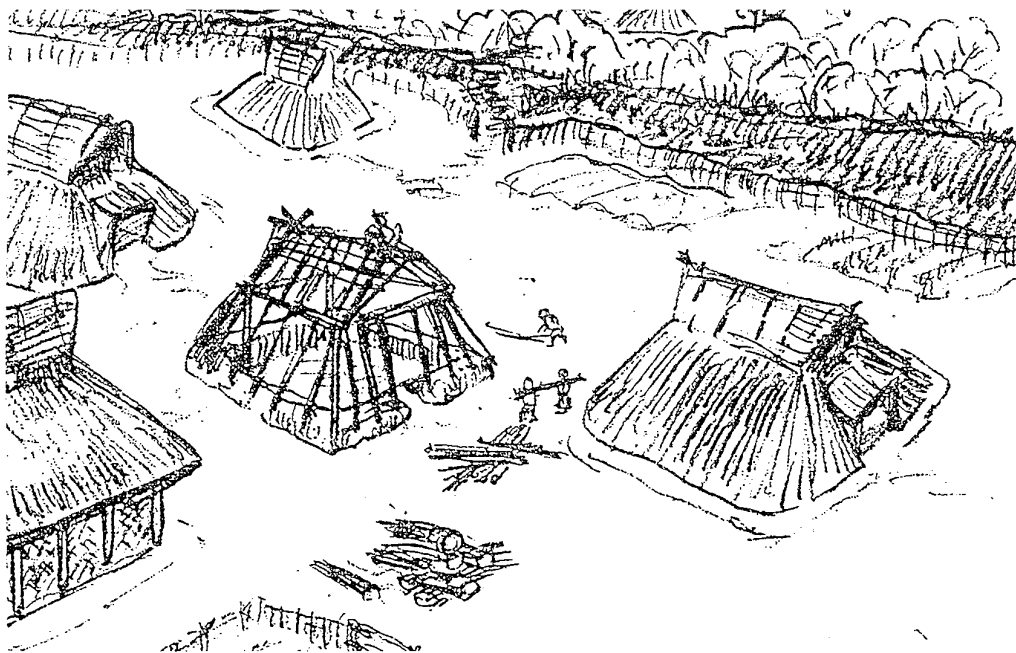
発掘調査現地説明会資料



カップ型須恵器出土状況

2000年9月9日

(財)京都市埋蔵文化財研究所



古墳時代の村の様子を想像してみました

植物園北遺跡発掘調査現地説明会資料

調査地	京都市北区上賀茂土門町39番地
調査主体	(財)京都市埋蔵文化財研究所
調査期間	2000年7月31日～調査中
調査面積	約310m ²

調査の概要

この敷地は最近まで農地のため、今まで深く掘り返されたことがなく、地表下約20～30cmで、古墳時代の遺構面が現れてきます。

現在までに検出した主な遺構は、古墳時代の^{たてあなしゅうきよ}堅穴住居が2棟、その他にも、^{どこう}土壙・小穴などがあります。

堅穴住居1は、そのほとんどが調査区外にあるため、規模は明らかではありませんが、住居内部では、^{へきこう}壁溝と呼ばれる^{みぞ}溝と^{ちようせうけつ}貯蔵穴と思われる土壙を検出しました。

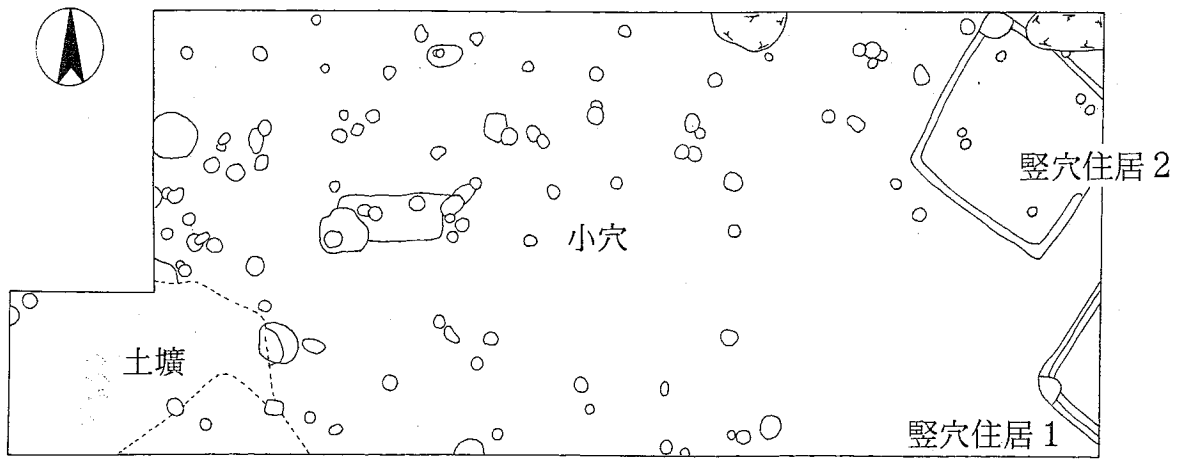
堅穴住居2は一辺が約4.5mありますが、全容は明らかではありません。住居内部には堅穴住居1と同様の壁溝や柱穴、北西角では貯蔵穴と思われる土壙を検出しました。住居の南西側と北東側ではそれぞれ2基並んで柱穴が見られることから、この建物は建て直された可能性があります。この住居からは、5世紀に作られたと思われる^{すえき}須恵器の^{わん}カップ型碗が出土しました。このような土器が住居跡から出土する例はまれで、京都市内でも出土例の少ない土器です。

2棟の住居はほぼ同じ方向を向っていますが、同時期に営まれていたのかどうかについては、もう少し検討が必要です。

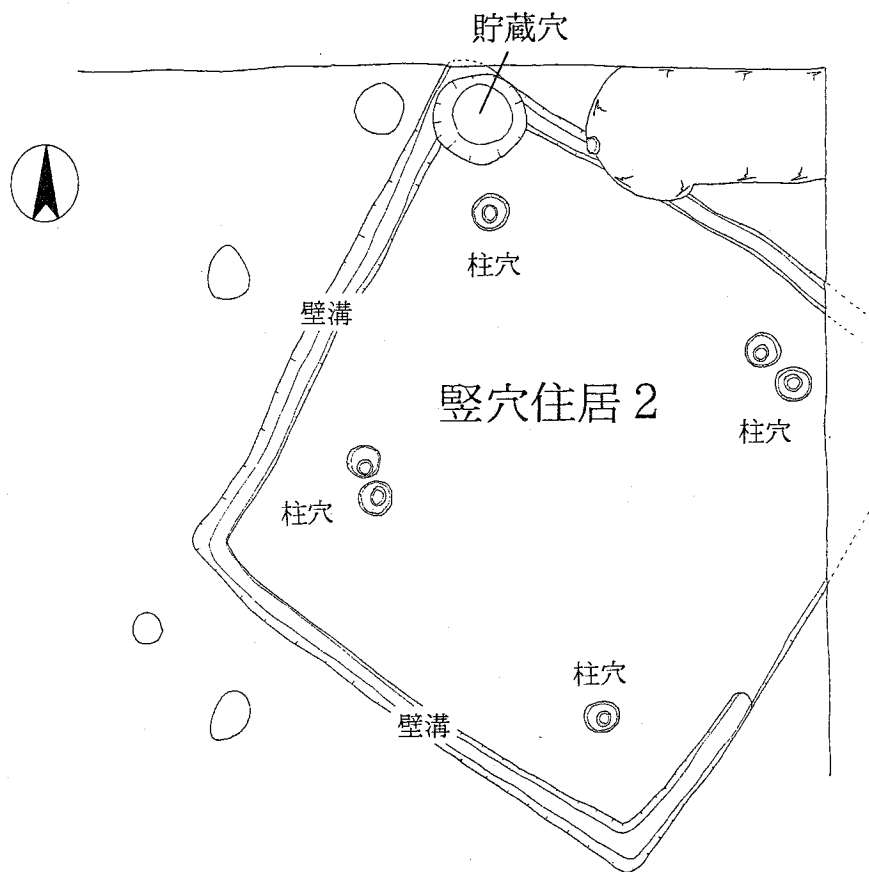
また、調査区西側では住居や土壙などが重複している箇所が見られますが、この土壙からは土器と石がまとまって出土しています。どのような性格なのか明らかになっていませんが、墓の跡の可能性もあります。

まとめ

今回の発掘調査では、5世紀代の堅穴住居や土壙を検出しましたが、これらの遺構は、地表からわずかに掘り下げたところで発見でき、古代の人々の生活が極めて浅い場所で発見できる数少ない地域です。



遺構配置図 (1 : 200)



竪穴住居 2 平面実測図 (1 : 60)



竪穴住居 2 (西北から)



竪穴住居 1 (南西から)



土壙 (北から)

植物園北遺跡とは？

位置 植物園北遺跡は、賀茂川と高野川が合流する北側に位置し、その面積は約140万㎡ほどあり京都市内でも最大級の集落遺跡のひとつです。

「植物園北遺跡」という遺跡名は、最初に遺物や遺構を発見した場所が植物園の北側であり、誰もがすぐに遺跡の場所が思いあたるようにと、このような名前が付けられました。

遺跡の発見 1974年（昭和49年）、市営地下鉄烏丸線の北進計画に先立って、「北山駅」の建設が予定されていた周辺で行った遺跡の遺物分布調査で、土器片が数十片発見され、この付近に遺跡のあることが初めてわかりました。また、1978年（昭和53年）から1981年（昭和56年）にかけてこの付近一帯で実施した公共下水道工事に伴う立会調査の時に、弥生時代から古墳時代の竪穴住居・土壇や平安時代以降の土壇・柱穴などの遺構が各所で発見され、府立植物園の北側一帯に遺跡が広がっていることが確認されました。

最も古い時代の遺構 現在のところ、最も古い遺構は縄文時代中期後半の土壇です。また、少し新しい時代の縄文時代晩期から弥生時代前期頃の遺構は、北山駅周辺で発見しています。

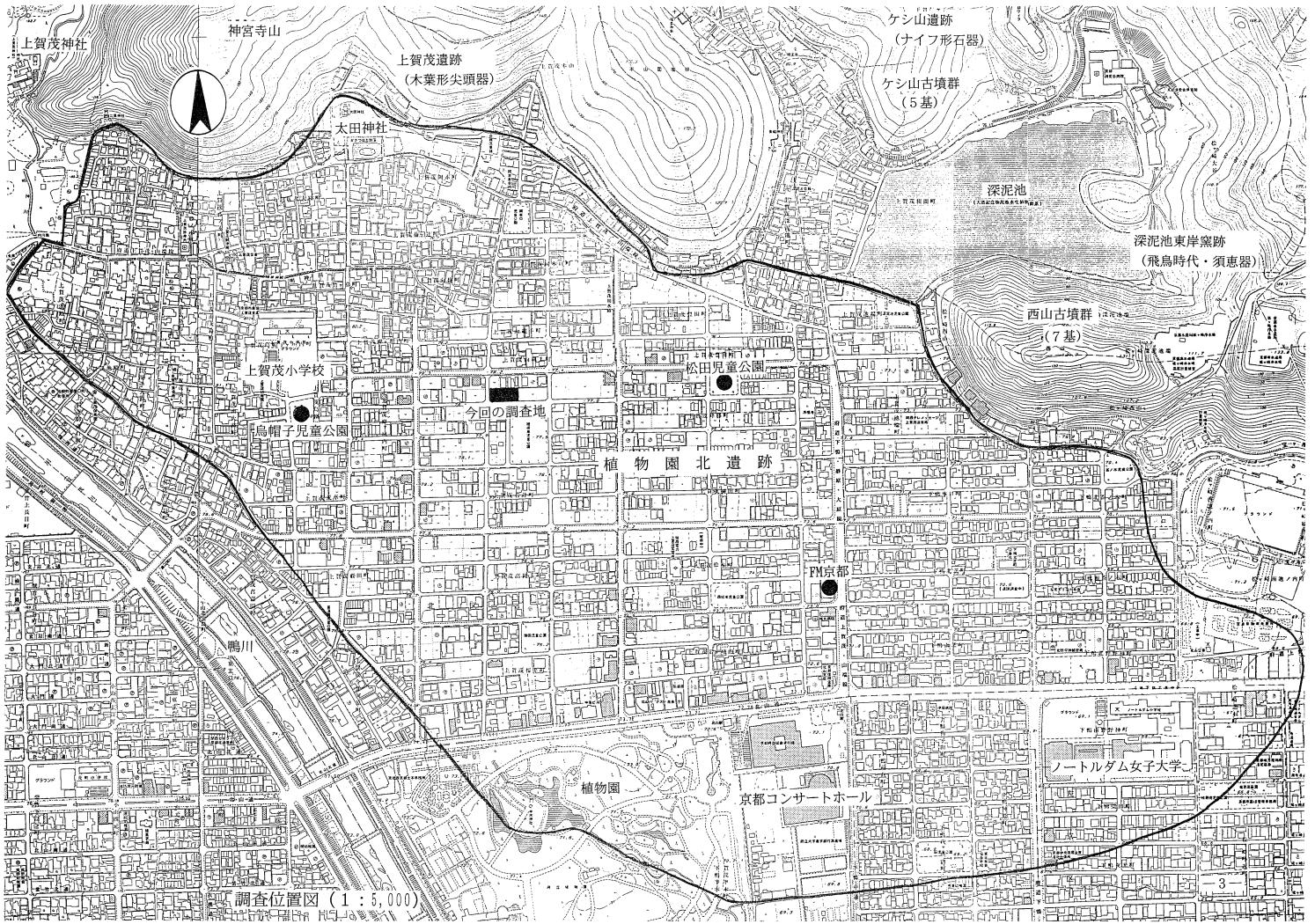
弥生時代後期から古墳時代前期 この時期の竪穴住居を数多く発見しており、遺跡内のあちらこちらに、竪穴住居が建てられ大きな集落が営まれたようです。この付近一帯には、多くの人々が生活していたことが想像されます。

なかでも、上賀茂小学校南東の烏帽子^{えぼし}児童公園の周辺、松田児童公園周辺、FM京都αStation周辺、下鴨北芝町の府営住宅周辺、ノートルダム女子大学構内周辺などでは、竪穴住居が集中して発見されています

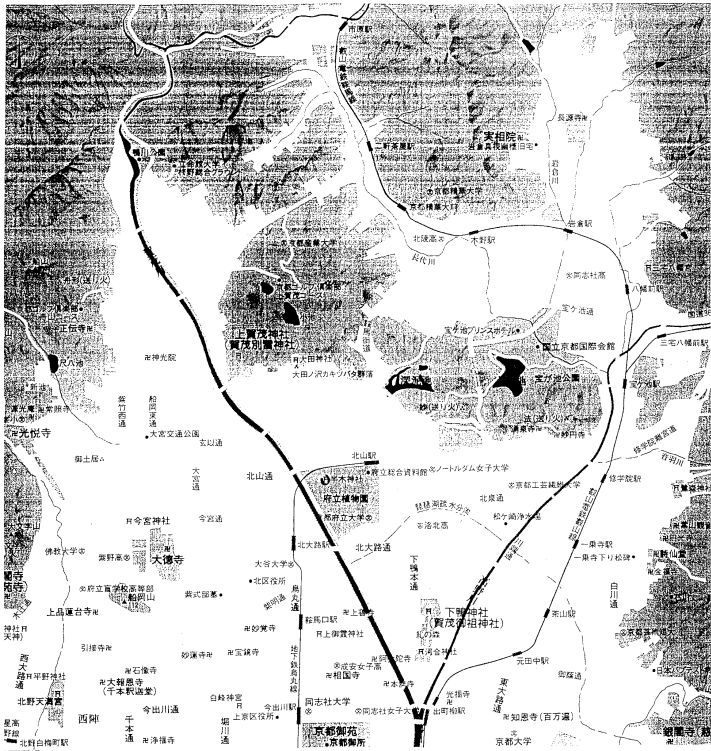
古墳時代後期から飛鳥時代 この頃も集落が営まれ人々で賑わったようですが、遺構の分布は上賀茂小学校の北西域、府立総合資料館・京都市コンサートホール周辺、ノートルダム女子大学構内周辺に限られるようです。

奈良時代から平安時代前期 この頃になると集落は、京都市コンサートホールの周辺に限られてきます。遺構としては、整然と並ぶ掘立柱建物や土壇、市内でも最も新しい竪穴住居などがあります。

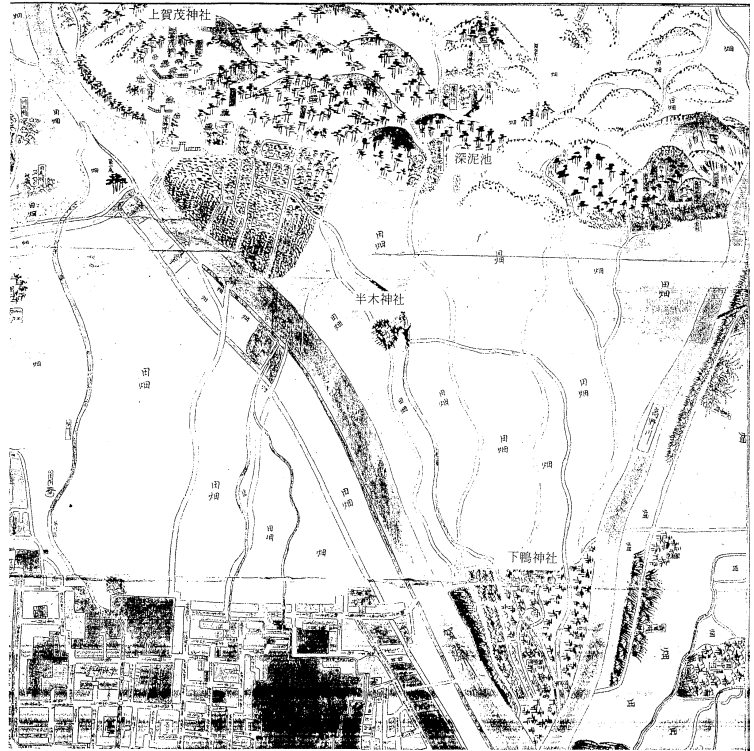
平安時代後期から鎌倉・室町時代 この頃の遺構・遺物は、遺跡内で散見されますが、特に遺跡の北西部は上賀茂神社社家町^{しゃけまち}になっており、それに関連する遺構が上賀茂小学校周辺で確認されています。



調査位置図 (1 : 5,000)



現在の上賀茂周辺の地図



江戸時代にかかれた上賀茂周辺の地図

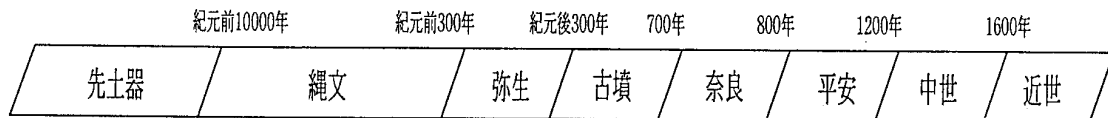
遺跡からわかる上賀茂地域の歴史

京都市埋蔵文化財研究所 近藤章子

上賀茂地域には、遺跡や天然記念物・文化財などが多数あります。氷河期、先土器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、飛鳥・奈良時代、平安時代、鎌倉・室町時代、江戸時代と各時代の遺跡があることが、調査によって明らかにされました。時代別に主な遺跡について説明します。

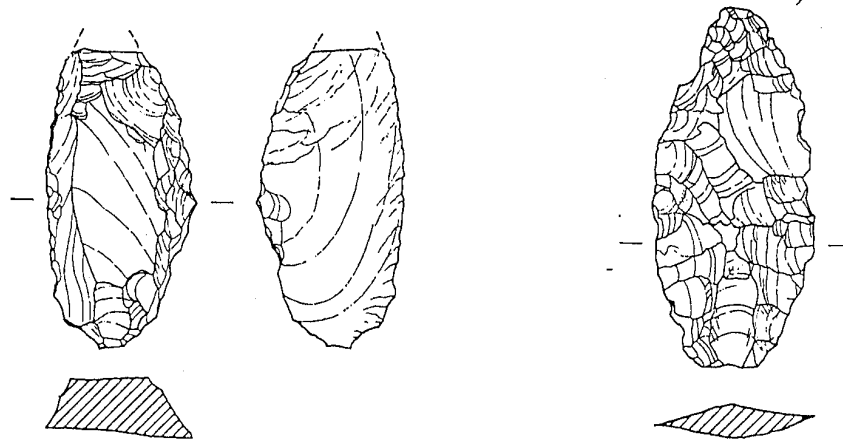
氷河期

深泥池は、昭和2年に国の天然記念物に指定されました。それは、深泥池には氷河期からの生き残りと思われる動植物が生息しているからです。何度かの調査によって、深泥池の起源は14万年前にさかのぼることもわかりました。



先土器（旧石器）時代（紀元前10,000年以前）

1968年、深泥池の北側のケシ山で、サヌカイト製のナイフ形石器が発見されました（ケシ山遺跡）。また同じ年、上賀茂神社の北の本山で、木葉形尖頭器の石器が発見されました（本山遺跡）。このあたりは、狩りなどに適していた所だったのでしょう。



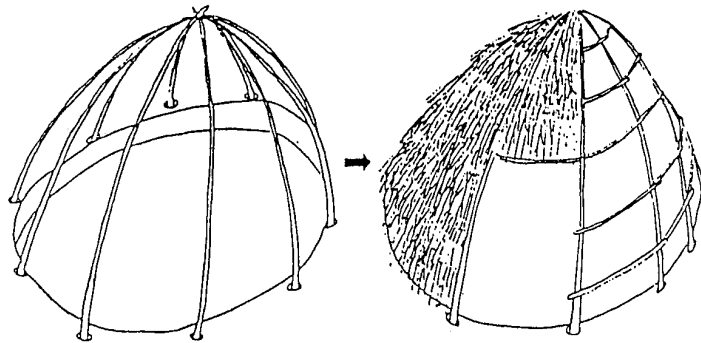
ケシ山遺跡（ナイフ形石器）

上賀茂遺跡（木葉形尖頭器）

縄文時代（紀元前10,000年～紀元前300年頃）

本山から神宮寺山にかけて、縄文土器や石鏃（石で作ったやじり）が発見されました（上賀茂遺跡）。このあたりは、先土器時代から引き続いて人々の生活の場であったことがわかります。上賀茂遺跡では、古墳時代の土器も出土しました。

北山通の地下鉄工事のための調査では、縄文土器の甕が見つかり、その状態から甕を棺とした墓ではないかとみられています。現コンサートホールでの調査でも、甕が発見されています。これらは縄文時代の終わりごろのものです。1996年の調査で、縄文時代中期の遺構を発見しました。土壌は深く、底には2つの穴があり、狩りに使った落とし穴のようなものではないかと思われます。（植物園北遺跡）。



縄文時代初めのたて穴住居の復元図

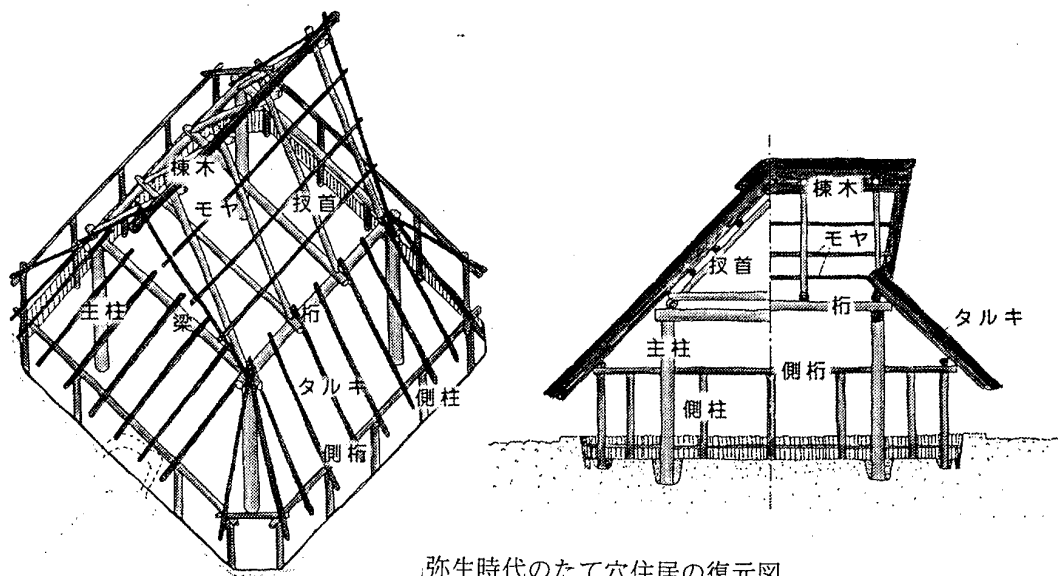
弥生時代（紀元前300年～紀元後300年頃）から古墳時代（～700年頃）

上賀茂地域を語る上で「植物園北遺跡」という遺跡は、とても重要なものです。

この遺跡は、上賀茂神社付近を頂点として、南東方向に緩やかに傾斜した扇状地に広がる、弥生時代から古墳時代を中心とした、京都では最大の集落遺跡です。植物園北遺跡は、北は神宮寺山から東へつづく本山などの山々、東は宝ヶ池教習場、南は京都府立植物園の一部を含む府立大学、西は賀茂川の東堤防付近までの範囲で、面積約140万㎡の広大な遺跡です。

これまでの調査では、竪穴住居80棟以上、掘立柱建物、土壙、溝などの遺構や、遺物も多数検出されています。これらは遺跡内全体に広がっているようです。

また、遺跡の北西には上賀茂神社があり、この神社の祖となる古代カモ氏とこの集落遺跡との関連は、切り離せないものであらうと思われます。『山城国風土記』逸文によると、賀茂の社の神はもと「大倭の葛木山の峰々（奈良県と大阪府の境あたり）」に宿っ



弥生時代のたて穴住居の復元図

た神で、そこから「山代の国の岡田の賀茂（京都府相楽郡加茂町の岡田鴨神社）」に至り、さらに木津川を北上して賀茂川上流の「久我の国（北区紫竹下竹殿町の久我神社周

辺）の北山基にしずま」とたとえられています。このような賀茂伝説により、有力な豪族であるカモ氏が、大和の国からこの地域での共同体の支配者となったのではないかと考えられます。

上賀茂小学校もこの植物園北遺跡にあたり、竪穴住居を3棟、平安時代の建物跡や中世の井戸、近世の土壙（ゴミ処理穴）などが見つかっています。

古墳時代の終わり頃になると、本山やケシ山、深泥池の西山などにたくさんの古墳が作られます。

平安時代（794年～1192年）

北山通とその周辺の調査で、平安時代の遺物は多数見つかっていましたが、明確な平安時代の遺跡は確認されていませんでした。しかし、上賀茂小学校の調査で平安時代の建物跡が発見されました。

現コンサートホールの調査は、奈良時代から平安時代の遺構が、まとまって見つかった初めての例です。奈良時代の竪穴住居や平安時代初めの掘立柱建物などの建物群が見つかり、倉庫と思われる建物跡があります。

F M京都の調査では、平安時代後期の建物跡が見つかっています。

中世（1200年～1600年頃）

上賀茂小学校の北側の調査で、室町時代の堀が見つかりました。これは、社家町に関連する「構」の堀であると思われます。この調査では井戸や柱穴群も見つかっています。社家町の調査成果が得られた初めての遺構です。その他では、社家町内での遺跡の調査は道路や小面積での調査が多く、室町時代の土器などは出土しているものの、明確な遺構は検出されていません。

近世から近代

上賀茂小学校の北側の調査で、桃山時代の墓が見つかりました。この墓の中には素焼き（土師器）の皿、陶器のすり鉢、銭などが入っていました。これは、木製の棺の上に置かれていたものだと思います。

その他では、畑や水田などの耕作の跡は見つっていますが、発掘調査からはこの時代の建物などの跡は見つかりません。

このように上賀茂地域は、京都の中でも古くから人々が生活していたところでした。

1999年10月18日

せつき 石器づくり

直接打法

石でたたく

もとの石 (原石)

間接打法

角や端をたたいてへらを作る

シカの角

押し法

棒で石のふちをプチプチと押していく

せつき 石器の観察

カマ

ハルブ

リング (皮状のもの)

フィンジャー (指状のもの)

(天神堂遺跡)

縦に割る

東日本に多い

横に割る

西日本に多い

せつき 石器の種類

まんねんまえ 3万年前
まんねんまえ 2万年前
まんねんまえ 1万年前

けずる

皮なめし

ナイフ形石器

けものの解体

キリ

穴をあける

削器

けずる

尖頭器

細石刃